



2023年2月10日

各位

会社名 株式会社アイリッジ  
代表者名 代表取締役社長 小田 健太郎  
(コード番号: 3917 東証グロース)  
問合せ先 取締役 CFO 森田 亮平  
(TEL. 03-6441-2325)

### 通期連結業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、2022年5月13日に公表しました2023年3月期(2022年4月1日~2023年3月31日)の通期連結業績予想を下記の通り修正しましたので、お知らせします。

#### 記

#### 1. 2023年3月期通期連結業績予想数値の修正(2022年4月1日~2023年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する当期 純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	6,300 ~6,800	375 ~475	—	—	—
今回修正予想(B)	5,430	200	—	—	—
増減額(B-A)	△870 ~△1,370	△175 ~△275	—	—	—
増減率(%)	△13.8% ~△20.1%	△46.7% ~△57.9%	—	—	—
(参考)前期実績 (2022年3月期)	5,423	342	340	255	36.51
対前期実績 増減率(%)	0.1%	△41.5%	—	—	—

#### 2. 修正の理由

2023年3月期第3四半期累計期間における業績の進捗と足下の状況を踏まえて、通期の売上高の見通しを5,430百万円に下方修正しました。利益面では、主に減収による売上総利益の減少により、通期の営業利益の見通しを200百万円に下方修正しました。なお、経常利益及び親会社株主に帰属する当期純利益については、現在は中長期的な株主価値及び企業価値の最大化に向けて、積極的な投資を実行しているフェーズであり、一部の営業外損益等の合理的な見積りが困難であることから、具体的な予想数値の開示は行っていません。

(前回発表時点の前提)

2023年3月期業績予想については、期初時点において、企業のDX（デジタルトランスフォーメーション）推進強化・デジタル投資の拡大を背景に、アプリ開発やアプリマーケティングを中心としたOMO領域オンラインマーケティング（デジタルマーケティング）関連の需要は堅調に推移する一方で、オフラインマーケティング（リアルプロモーション）関連を中心に新型コロナウイルス感染症拡大の影響によって不透明な事業環境の継続が予想されることに加え、中長期的な売上高成長率の再加速に向けたさまざまな投資を、事業環境や投資機会、新規事業の進捗状況等に応じて、機動的かつ柔軟に実行していく予定にしているため、レンジでの見通し開示としていました。具体的には、2023年3月期上期においては、OMO領域オフラインマーケティング（リアルプロモーション）関連を中心に、新型コロナウイルス感染症による一定の業績へのマイナス影響が生じる想定をしていましたが、レンジの上限値はそのマイナス影響が2023年3月期上期末にはほぼ生じていないことを、そして、下限値はその影響が期末まで続いていること等を主要な前提としていました。

(主な減収要因)

当第3四半期連結累計期間（2022年4月1日から2022年12月31日まで）において、売上高は3,689百万円（前年同期比6.9%減）、営業利益92百万円（前年同期比54.0%減）となりました。

新規事業領域においてデジタル地域通貨プラットフォーム「MoneyEasy」の導入先が拡大し期初の想定を上回り増収となった一方で、OMO領域オンラインマーケティング（デジタルマーケティング）関連において、人材の獲得競争が一段と深刻になっており、人材採用等による開発体制の強化が期初の想定までは進んでおらず、新規開発案件の受注や開発進捗の遅延が発生したことに加え、OMO領域オフラインマーケティング（リアルプロモーション）関連において新型コロナウイルス感染症拡大による顧客企業の予算縮小や新規顧客獲得の遅れ等のマイナス影響が期初の想定を上回る水準となりました。

上記の予想は本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき算出したものであり、実際の業績は様々な要因により予想数値と異なる可能性があります。開示すべき事項が発生した場合には、速やかにお知らせします。

以 上